

学校だより



# ゆめは大きく

尾張旭市西の野町5丁目1番 <https://www.owariasahi.ed.jp/asahi-e/>

尾張旭市立  
旭小学校  
第3号  
令和2年  
7月3日

TEL0561-53-2035

## 人間万事塞翁が馬

校長 浅野 謙一

2月末に出された「学校休校」要請から3ヶ月、ようやく5月25日から学校が再開され、1ヶ月が過ぎました。通常の日課が始まり、少しずつではありますが、普段の学校生活が戻りつつあります。勉強すること、当番や係の仕事をする、給食を食べること、友達と話すこと、遊ぶこと、けんかすること、こうした普段の学校生活が始まると、普段の学校生活を送ることができるありがたさを感じます。

今、保護者の皆様が一番心配されていることは、これからの学校生活はどうなるのか、特に授業はどうなるのか、学力の遅れは大丈夫か、ということだと思います。休校中の授業の遅れについては、すでにご案内した通り、夏休みの期間を短縮して授業を実施します。夏の暑い時期に登校することになりますので、熱中症対策を十分に講じながら授業を進めていきます。そして、指導順序の変更や、教師による事前・事後指導と家庭における学習の組み合わせによる指導計画を立て、休校中の授業の遅れを取り戻していきます。また、学校の各種行事につきましては、今までと全く同じという訳にはいかなくなりました。運動会、林間学校（5年生）、修学旅行（6年生）につきましても、今のところ感染症対策をしながら実施する予定ですが、実施方法や内容を一部変更することとなります。詳細につきましては、後日改めてお知らせいたしますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

中国の故事に「人間万事塞翁が馬」という話があります。昔、中国に住む老人（塞翁）の馬がいなくなった。人々が気の毒がると、老人は「なに今に良いことがあるよ」と平気だった。やがて、その馬は足の速い馬をつれて戻ってきた。人々は「よかった、よかった」と祝うと、「今度はこれが不幸の元になり、何か悪いことが起きるかもしれない」と喜ばなかった。案の定、その馬に乗った老人の息子が落馬して足の骨を折ってしまった。人々が見舞いにいくと、老人は「これが幸福の元になるだろう」と平気だった。一年後、戦争が始まり、健康な若者は、ほとんど戦争につれていかれて戦死してしまった。しかし、足を折った老人の息子は、戦争につれていかれずに戦死しなくて済んだ。というお話です。このお話の意味は、世の中には、本当に大変なこともあるし、うれしいこともある。でも、大変だと思ったことが実はうれしいことの始まりだったり、ものすごくいいと思ったことがとんでもないことの始まりだったりするということです。

「人間万事塞翁が馬」良いも悪いも受け入れて、このコロナという試練を乗り越えて、子どもたちと明るく輝く未来を求めて、一緒に歩んでいきたいと思えます。

## 6月の学校の様子



1年給食



手洗い



朝の体温チェック



図工



算数



初めでの習字



体育



外国語



田植え体験

## お知らせとお願い

### 【個人懇談会について】

※ 7月27日（月）～30日（木）

一人10分程度と短い時間ですが、お子様の学校での様子や家庭での過ごし方等についての情報を共有し、有意義な時間としたいと思います。よろしくお願いいたします。

### 【クラブ活動について】

※ 4～6年生のクラブ活動は、授業数確保のため今年度は行いません。

### 【部活動について】

※ 部活動については、状況に応じて変更する場合がありますが、サッカー部、ミニバスケットボール部、金管バンド部ともに、9月以降の再開を目指します。

### 【お願い】

※ 子どもたちは、学校生活の中で、マスクの着用や体調に合わせてマスクを外して給水をするにもずいぶん慣れてきました。学校では熱中症対策として、換気をしながら冷房を入れています。お子様の免疫力を高めるために、十分な睡眠、適度な運動やバランスの取れた食事の心がけをお願いいたします。